



NPO 法人京阪総合カウンセリング 事務局だより

2022年7月

2022年度の総会のご報告

2022年度の総会は、5月28日午後1時より枚方市総合福祉会館の大研修室において無事に執り行うことができました。

2021年度の事業報告及び決算報告、2022年度事業計画

及び予算について了承されました。また、役員については「原川正慶（理事長）」「密居建三

（国資・キャリアコンサルタント）」「米谷富男（元通産省、元大学教授）」「山崎みの子（相

談役）」「平野裕子（国資・公認心理師、学校相談員）」「原川正祥（国資・公認心理師、精神

科クリニック・カウンセラー）」「松元樹美枝（監事）」以上7名の役員の再任に賛成多数を

頂き、2022年度に向かい合うこととなりました。3年ぶりの一同会しての総会となり、

講演会も含め90名以上の多くの会員の皆様の元気な様子を拝見し、非常にうれしい思い

に浸ることができました。本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

お陰様を持ちまして会員数もコロナ以前より大幅に増加し、6月1日現在189名となりました。この結果は、日頃の会員の皆様のご協力とご支援の賜物であることを実感させられております。

当会における各臨床心理学を中心とした講座は、知識の提供にとどまらず、心理的不調やうつ病をはじめとするあらゆるパーソナリティ障害などの予防を目指して開講しております。年毎のアンケート調査の結果、『対人関係が楽になった』『家族関係が改善された』『職場の人間関係の悩みが解消された』など対人関係の心理的負担の軽減がもたらされた回答が70%を超える報告があります。当会の講座には精神疾患やパーソナリティ障害などの問題を抱えている方も参加されている中で、このようなアンケート結果がもたらされていることは、当会の活動が社会貢献に向けて充実してきていることの証明でもあると確信しております。

これらの結果の原動力となっているのは、この活動において一貫して大切にしている「個人尊重」という臨床心理学におけるキーワードを知識として理解することとどまらず、生活の中で実践していくことを大切に学んでいる結果であると思います。

これからも、派手な活動ではなく、地道に手堅く一步一步前に進めていく「地域貢献」を目指して、会員の皆様と共に歩みを進めてまいりたいと思います。

どうぞ宜しくご協力、ご支援を賜りますようお願い致します。

理事長 原川正慶



無料講演会の報告

コロナ対策により2年間定例の講演会が中止となっていました。今年度は5月28日の総会終了後の午後2時より約2時間の講演会を開催いたしました。これまで3年前には精神科医の三家先生や、主に日本カウンセリング学会から大学教授の先生方をお招きして御講義を頂いてきましたが、今年度は日本カウンセリング学会関西支部会の会長、関西外国語大学教授（専門は教育心理学）、文部科学省「児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議」委員を務めておられる新井肇先生をお迎えして講演をいただきました。テーマは「青少年の自殺予防について考える」と題して、御講義を頂きました。



要点として

- 1, 統計による日本の自殺者数の推移、青少年の自殺者の推移、特に青少年の自殺者の増加傾向
 - 2, 青少年の自殺の原因と特徴について、子どもの死生観、死に対する現実感の希薄など
 - 3, ハイリスクな児童生徒の背景要因、自殺の危険因子について、自殺と心の病の関係
 - 4, 自殺に追いつめられた時の心理、自殺の行動化の要因、危険が高まったときの心理の特徴
 - 5, うつ状態のサイン、うつ状態に陥っている人の特徴
 - 6, 自殺直前のサイン、危険のサインに気づくには、危機を回避するためのリスク・マネジメント
 - 7, 危機にある児童への支援の実際、危機にある生徒へのかかわり（TALKの原則）、事例からの学び
 - 8, 青少年の心の危機の叫びを受けとめる体制と大人の力、キーワード「絆と気づき」が第一歩
- 以上8つの項目を分かりやすい事例や具体的にかみ砕きお話を頂きました。

受講者のアンケート結果（受講者94名）

- ・講演を聞いて自殺予防を意識していきたいと思った（72%）
- ・講演を聞いて、普段の身近な人たちとのかかわりにも役立てたいと思った（70%）
- ・講演を聞いて自殺予防を具体的に考えることができた（67%）
- ・今後のカウンセリングにも役立てたいと思った（66%）
- ・当会の活動において、対人援助に役立てたいと思った（63%）
- ・常日頃から自殺を身近なこととして考えるようにしたいと思った（58%）

個人的感想（一部抜粋）

- ・話しが具体的で分かりやすく、参加してよかった。（複数）
- ・「相手の話を聞いているときに自分の考えも聞いている」ということが心に響いた。
- ・「自立は依存する先を変えていることでもある」ということを新たに考えさせられた。
- ・いじめの報道などと、実際の事例には誤差があると認識を新たにしました。
- ・身近に自殺者がいて、思いめぐらすことが色々あったが、新井先生の経験から「人間にはできないことがあってもいいのだ」と思い、気持ちが少し楽になった。
- ・新井先生の実態調査などの報告には、熱意を感じ感動した。
- ・「人は助け合って生きていくもので、全てが出来なくても良い」ということが心に残った。
- ・もう少しじっくりと話を聴きたいと思った。（複数）

以上が主な結果となりました。

多くの受講者の方々が身近なこととして捉え、実生活や地域貢献に向けて、今後役立てていきたいというお声を頂き、企画した事務局としては大きな成果があったことを実感しています。

